

噴火しなくても慌てずに

火山噴火の際には、火山性微動や地震発生が頻発するなど、ある程度の前兆現象が見られるとされています。

火山活動に異常が認められ、居住地域や火口周辺に影響が及ぶ噴火の発生が予想された場合などには、市から噴火警報をはじめとする防災情報を発表します。

津波発生の場合の避難は、大きな揺れや、長い揺れが発生したら、避難情報を持たずに避難をしていただくことが基本ですが、火山噴火については、市からの避難情報によって、随時、計画的に避難をすることとなります。

避難情報は、土砂災害の場合と同じで、テレビなどのマスメディアや防災行政無線(防災ラジオ)、広報車など複数の手段によって、情報が発せられます。

避難が必要となった場合には、慌てずに市からの避難情報をもとに避難しましょう。



避難時には、ヘルメットやゴーグルなどを着用。非常時の持ち出し品も忘れずに！

市からの避難の指示に従って避難所などへ移動

噴火の規模によって避難が必要な場合は、自主避難または市の用意した車両で避難所へ移動

登山者の皆さんへ

樽前山は活火山です。御嶽山のような山頂部での水蒸気爆発に伴う噴火は予知が難しいとされています。登山する際は突然の噴火の可能性があるので、一定のリスクを認識し、自らの安全を確保するために必要な手段を準備しておきましょう。

また、登山をする場合には、次のことに注意しましょう。

安全な登山4カ条

その1 事前に火山情報を確認する

(市や気象台のホームページで、樽前山の活動の状況や警戒事項、**噴火速報**に関する情報が必要に応じ公開されています)

その2 突発的な火山噴火に備え、ヘルメットなど必要な装備をする

その3 登山道入り口などに設置の登山者名簿に忘れずに記入する

その4 入山規制区域には立ち入らない(山頂の火口付近に入山規制区域があります)



明治42年 樽前山中噴火



大切なことは日頃から 避難行動について考えること

近年、災害の傾向は大きく変化しています。全国的に見ても局地的豪雨の増加は明らかで、苫小牧市でも平成25年、26年と大雨による土砂災害などが発生しました。市では「避難勧告等の判断伝達マニュアル」を作成し、これまでよりも早め早めの避難を呼び掛けることで被害をできる限り少なくするよう努めています。

現在年間60回以上の防災出前講座を行い、避難行動の考え方や方法などについてお話しさせていただいています。「立ち退き避難」だけでなく、「屋内退避」も大切な避難行動の一つであり、災害時にはより安全な方法を自分たちで正しく判断しなければなりません。そのためには、自らの住む地域にはどのような危険性が潜んでいるのか、避難情報が発令されたらどのように避難すべきかを日頃から確認しておく必要があります。

今後あらゆる災害の状況に備えて、ハザードマップなどの危険予測やより具体的な防災マニュアルの整備を進めていきます。ぜひこれらの情報を積極的に受け取っていただき、「自分の身は自分で守る」という意識で日頃から災害に備えましょう。



危機管理室長 いしがき しんじ 石垣 信治